

令和4年度「高等学校段階の病気療養中等の生徒に対するICTを活用した遠隔教育の調査研究事業 成果報告書（概要版）」

宮城県教育委員会

1. 背景・目的

病気療養中等の生徒について、治療を受けながらの学習機会確保が困難な場合があり、さらに欠席日数の増加に伴い、単位に関する履修と修得の問題があった。

そこで治療を受けながら学業を継続できるよう、入院中や退院後の自宅療養中等における教育支援の環境の整備に向け、学校、医療機関及び教育委員会等の関係機関が連携して、ICTを活用した効果的な遠隔教育の活用方法等を始め、教育の保障の在り方について調査研究を行うこととなった。

（調査項目）

- ア 医教連携コーディネーターを活用した病院と学校の連携
- イ 同時双方向型遠隔授業に関する環境整備
- ウ 同時双方向型遠隔授業に関するデバイスの整備と活用
- エ 実態調査及び事業の周知
- オ 学校等への理解啓発

【長期療養により30日以上欠席した生徒数と支援件数及び進路変更等について】

年度	長期療養による30日以上 の欠席（病気／怪我）	支援あり	支援なし	転学／休学／退学
H30	49（41／8）	33	16	3／4／5
R1	25（18／7）	17	8	1／2／4
R2	40（25／15）	28	12	3／3／0
R3	36（32／4）	24	12	2／2／3

医療機関と教育機関の連携体制を構築し、学習支援を実施するためのコーディネートの役割が必要である。

2. 事業の内容及び成果①

○支援体制の整備

- ア 医教連携コーディネーターを活用した病院と学校の連携
- イ 同時双方向型遠隔授業に関する環境整備
- ウ 同時双方向型遠隔授業に関するデバイスの整備と活用

○実態調査及び事業の周知

- ア 「病気療養中等の生徒に関する実態調査」を実施
- イ 「入院している高校生に対する学習支援」リーフレットの作成
- ウ 学校等への理解啓発

医教連携コーディネーター：

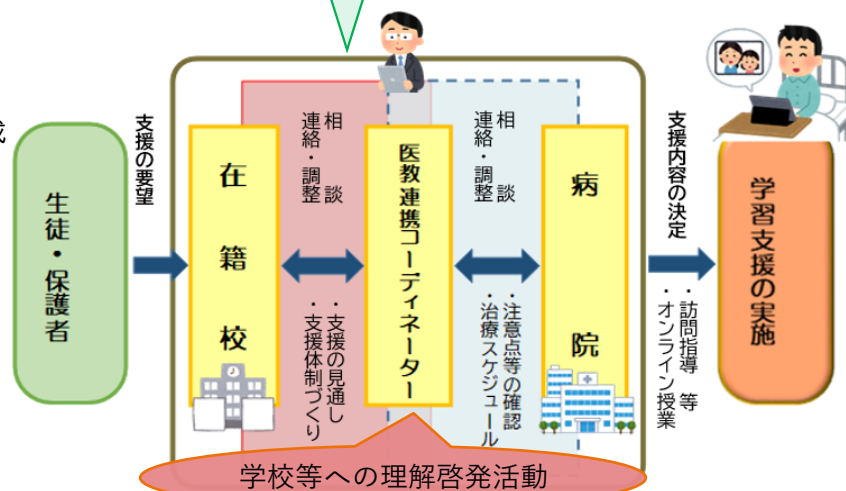
宮城県立こども病院に隣接した県立高等学校に1名配置し、県立高等学校の生徒が入院した際に、病院と学校の間で連絡調整や学習支援の助言等を行う。医療機関と教育機関をつなぎ、連携をコーディネートする。



宮城県教育委員会
Education in Miyagi Prefecture

高校教育課 事務局

事務局は当事業の全般に関わり、支援体制の整備を行うと共に、実態調査及び事業の周知を行っている。在籍校及びコーディネーターからの連絡・相談等に対応する。



2. 事業の内容及び成果②

- 医教連携コーディネーターは学校を訪問し、学習支援の進め方、同時双方向型遠隔授業開始までの流れ等の説明を行った。
また、病院側ではカンファレンスへの参加、生徒への対応、遠隔授業の端末設定等を行った。学校側、病院側の連絡調整や機材準備等の負担軽減の一助となった。
- 東北大学病院、宮城県立こども病院との連携体制の整備が進んでおり、医療ソーシャルワーカー等が入院する高校生の担当窓口となり、医教連携コーディネーターとの連携を深めた。
入院した高校生が学習支援を希望する場合、病院から医教連携コーディネーターに情報共有される形ができています。
- 県教育委員会が全ての県立学校に「Google Workspace for Education」を導入していることから、各学校では遠隔授業の実施やオンラインでの課題等の配布についてスムーズに対応することができている。
- タブレット端末（Chromebook）やテレプレゼンスロボット「Kubi」等を整備し、貸し出している。
「Kubi」を授業内のグループワークで活用した学校では、入院中の生徒が病室にしながら協働作業などに参加し、活動することができた。



- 退院後、自宅療養する場合の支援についても、医教連携コーディネーターは復学カンファレンスに参加するとともに、機会を見て状況を確認して適切な助言等を行い、入院中と同等の学習支援を継続することができた。
- 本事業に関する情報提供のスライドをGoogle Classroom に投稿し、各校窓口の教員が閲覧できるようにしている。
- 同時双方向型遠隔授業の実施は、入院している生徒の教育機会の保障のみならず、「治療への意欲向上」や「退院後のスムーズな学校復帰」に大きく寄与している。
ある事例では、同時双方向授業に取り組むようになってから表情が良くなったとの情報提供が担当医や看護師からあり、さらに退院直前のカンファレンス後には、当該生徒が「**オンラインで授業ができてよかった。あとは体力をつけるだけ！**」と嬉しそうに話していたとの報告があった。

2. 事業の内容及び成果③

【令和4年度の支援事例】

学校・学年	病院 (入院科)	入院期間等	主な支援内容	通信環境 使用機器等
①県立高校 2年	県立こども病院 (血液腫瘍科)	1年2ヶ月 入院	同時双方向型遠隔授業(病室) 進級認定, 定期考査病院受験 退院後段階的に学校復帰	病院Wi-Fi Wi-Fiルーター貸出 Chromebook, Kubi
②県立高校 3年	JCHO仙台病院 (整形外科)	2ヶ月 入院	同時双方向型遠隔授業(病室) 出席認定, 退院後段階的に学校復帰	Wi-Fiルーター貸出
③県立高校 1年	仙台赤十字病院 (消化器内科)	4ヶ月 入院	同時双方向型遠隔授業(病室) 出席認定, 退院後段階的に学校復帰	Wi-Fiルーター貸出 Kubi
④県立高校 1年	東北大学病院 (小児科)	2ヶ月 入院	同時双方向型遠隔授業(病室) 出席認定, 退院後段階的に学校復帰	病院Wi-Fi Kubi
⑤県立高校 2年	東北大学病院 (小児科)	9ヶ月 入院	同時双方向型遠隔授業(病室) 出席認定, 定期考査病院受験	病院Wi-Fi Kubi
⑥県立高校 2年	東北大学病院 (小児科)	7ヶ月 入院	同時双方向型遠隔授業(病室) 出席認定, 退院後段階的に学校復帰	病院Wi-Fi Kubi
⑦県立高校 1年	仙台医療センター (精神科)	3ヶ月 入院	同時双方向型遠隔授業(病室) 出席認定, 退院後は自宅療養	Wi-Fiルーター貸出
⑧県立高校 2年	東北大学病院 (小児科)	6ヶ月 入院中	同時双方向型遠隔授業(病室) 出席認定	病院Wi-Fi Kubi
⑨県立高校 1年	仙台市立病院 (循環器内科)	5ヶ月 療養中	同時双方向型遠隔授業(自宅) 出席認定	Kubi
⑩県立高校 2年	東北公済病院 (整形外科)	1ヶ月 入院	同時双方向型遠隔授業(病室) 出席認定	Wi-Fiルーター貸出 Kubi

○ 東北大学病院や県立こども病院以外の病院における支援実施も増えた。県内の主要病院には、高校生の入院の有無に関わらず、訪問するなどして事業説明を行った。

3. 今後の課題

○ コロナ禍における学習支援体制の在り方

面会等に制限がかかる中であっても、学習支援が実施できるよう、支援の一連の流れを共有するなど、病院との連携を深める必要がある。

○ 通信環境と機器整備について

授業の配信・受信について、より良い環境、機材は何か、現状を分析して効果や有効性について検証を重ねていく。

○ 学習支援（遠隔授業）に対する理解

これまでの実践例をもとに、学習支援の進め方や機械操作に関するマニュアル等を整備し、各学校に周知する。

○ 学習内容のさらなる保障

治療時間や体調が優れないとき等は授業を受けることができず、その部分の学習内容の保障が難しい。今後、授業のポイント解説動画を作成するなど、オンデマンドで学習することも考えていく必要がある。

本事業は、文部科学省の委託を受け、実施したものです。

報告書の詳細は、下記URLからご覧ください。

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/main/006/r01/1422837_00003.htm

